

2006 年度

科目名 文化財研究法 1B	対象学科・学年 文学部文財1回生	担当者 犬木 努
授業テーマ 文化財学入門編（2）——文化財学とはどのような学問か？		
授業の概要と目標 文化財学科への入学者の大半は日本史が得意であった者、あるいは日本史が好きな者が多いはずであるが、大学での「文化財学」は必ずしもその延長線上にあるわけではない。中学・高校での日本史の授業は、一般に、基礎知識の習得と「定説」の理解に重きを置いているが、大学の講義では、その「定説」そのものを疑うところから出発する。「定説」の根拠はどこにあるのか、そこに問題点はないのかどうか、「定説」はいかにして形成され、またいかにして覆されてきたのか。単なる知識習得を目指すのではなく、文化財を「研究する」「学ぶ」「知る」「考える」ということ、これらの意味について一緒に考えていきたい。		
評価方法 出席点およびレポートによって行う。		
テキスト 使用しない。授業時に適宜資料を配布する。	著者	出版社
参考書 授業中に適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 講義形式と発表形式を併用します。適宜、課題を割り当てて、発表してもらいます。 以下のようなテーマについて数回ずつ進めていきたいと考えています。 1. 考古学・考古学の概説書を読む——「定説」はいかにして形成されるか？ 2. 歴史学・考古学の論文を読む——「根拠」はどこにあるのか？ 3. 発掘調査報告書を読む——出発点としての「遺跡」 ※授業回数は後期に隔週で、7～8回程度を予定している。 ※各々の項目を数回にわたって行う場合もある。また順番・内容については変更する場合がある。		